

【2月の植物】

ウメ バラ科 落葉中木 花期；2～3月 場所；バス停付近の東法面



ウメは早春の花として親しまれているばかりでなく、梅干しや梅酒としても日本人の生活に溶け込んでいる植物であるが、原産地は中国、奈良朝初めには渡来していて、万葉集にはウメの花の和歌が数多く詠まれている。当時は中国からもたらされた香り高い文化の象徴としてもてはやされていたようだ

わが団地の紅梅、白梅はバス停付近の東法面にそれぞれ1本ずつ植えられている。元日に見て回った時、紅梅はすでに2～3輪咲き始めていた。白梅が咲き始めたのは1月下旬になってからである。

ところで、この紅梅は『団地の植物 2014年2月(PDF)』にも書いたように、どこかくすんで、バラケた感じでいただけない。なぜなのだろう。 (写真；紅梅 2017 1/22 白梅と風景 2/8)



ハンノキ カバノキ科 花期；11月から

日本全国に分布、低湿地や湿原などに自生する落葉高木、成長すると高さは10～20mになる。当地では湿地ではないが主に東法面に生えている。

わが団地には早春の花は少ないが、ウメと並んで、実はこのハンノキが春を告げている。といっても高い木の枝から垂れている尾状の花に気づく方は少ないのではと思われる。図鑑では花期が11月頃からとなっているが、望遠で写真を撮り拡大して見ても、1月はまだ固い感じ。1月下旬



ころからようやくほころび始めるという感じである。 (写真；2014 2/21 尾状が雄花、赤い芽が雌花)

(『団地の植物 2014年2月(PDF)』参照)

クサボケ バラ科 落葉小低木 花期；4～5月、場所；バス停付近の東法面

クサボケもバス停付近の東法面に生えている。白梅より植生ブロック寄り、知る人ぞ知る位置に、朱赤色とピンクがかかった色の2種が数本ある。 (写真；赤 2015/3/24 ピンク 2015/3/29)



“クサ”というが草本(いわゆる草)ではなく低木。ボケに似ているが、小型の低木なのでこの名がついている。ボケは中国原産、このクサボケは日本原産。2月半ばには咲きだした。

ボケとクサボケの違いを図鑑から拾い出してみると

	樹高	葉の長さ	花の直径	花期
ボケ	2 m ほど	4～8 cm	2～5 cm	3～4月
クサボケ	0.3～1 m	2～5 cm	2.5～3 cm	4～5月

このようにクサボケはボケに比べて樹高も、葉も花もやや小型。花期がずれているのが気になるが、やはり暖冬、温暖化のせいだろうか？

フキ キク科 花期；3～5月 多年草

フキノトウは当地では2月下旬～3月上旬頃

フキの葉 4月頃

春の野の楽しみはフキノトウを探すこと。冬枯れの法面に淡緑色の苞に包まれたフキノトウが顔を出しているのを見つけると、思わず「ああ、今年ももうこんな季節になったのだ」と口元がほころぶ。 (フキノトウ 2014/3/4 →)

わが団地では2号棟東方付近の東法面と10号棟北側法面に、フキノトウが2月下旬ころから芽を出してくる。これを楽しみにされている方も多



く、芽を出せば次々と摘まれていく。少し経って、その付近一帯にフキの群生が見られる。

(フキの葉 2014 4/17 →)

一体、フキノトウとフキとはどのような関係があるのかと不思議に思ったことがある。フキノトウが終わってからフキ(葉)の群生が現れる。フキノトウとフキは同じ植物であるはず、フキノトウが成長してフキになるには、形が全然違う。知っておられる方にはバカみたいな疑問だが、フキノトウは芽を出せばすぐに摘まれてしまうので、全体像がイメージできなかったのだ。改めて図鑑を見て、「な～んだ、ツワブキのイメージで見ればよいのか。花の茎を伸びないうちに摘んでしまうので、それが見えなかったのだ」と、合点した次第

(つまらない話題ですみません)

HP から見つけたフキの花と葉 →



ところで、フキノトウはフキの幼蕾で、蕾が集まった頭状花である。そして、フキは雌雄異株、雄株は黄白色の頭花をつけ、雌株は白っぽい頭花をつけるとの事。過去、3年分の写真を調べたが、白い雌花だけしか見つからなかった。フキは地下茎を伸ばして増えるので、群生の中に雌雄が混じっていないのかもしれない。



(左) フキの雌花 (2014 3/16)



(右) HP で見つけたフキの雄花

【トピックス】

タチツボスミレの口ゼット

北法面、9～10号棟北側法面でタチツボスミレの口ゼットを見つけた。図鑑で調べるとスミレ属はすべて多年草とのこと。多年草なら口ゼットになっておかしくない。
(写真；2017 1/30 →)



アメリカフウロの冬越し？

東駐車場の南部、街灯の周辺あたりに、アメリカフウロの冬越しの姿を見つけた。アメリカフウロは1年草なのだから、冬は枯れて、春に新たな芽を出すはず。なぜ冬に生えているのだろうか。同じフウロソウ科のゲンノショウコは多年草、一部紅葉しながらも、冬でも東法面に見られる。アメリカフウロも多年草の性質もあるのだろうか？(写真；2017 1/30)



赤い花のマンサク

マンサクは初春に“まず咲く”花として知られている。確か黄色いひも状の花だったはず。ところが赤い紐なのだ。場所はクロスガーデンの東側、建物と車道を区切る生垣。ここに赤色と黄色のマンサクが咲いている。じつはこれ、マルバマンサクのようだ。しばらくすると丸い葉がつくのが見られる。なお、赤い方はマルバマンサクの品種の一つで、アカバマンサクとのこと。(写真；2017 2/22)



(石川記)